

中央農業高校ラグビー同好会発足

神奈川県立中央農業高等学校
教諭 三上拓壘



中央農業高等学校では、2016年5月にラグビー同好会を発足させました。これは、今年度で111周年を迎えるという長い歴史をもつ本校史上初めてのことです。中学校やラグビースクールでの経験者はおらず、ラグビーを0から始めた生徒達ですが、少ない人数ながら工夫を凝らし、日々の練習に取り組んでいます。

顧問を務める私は、藤沢ラグビースクールで楕円球に出会い、県立七里ガ浜高校ラグビー部、横浜国立大学ラグビー部に所属し、約15年間プレーヤーとしてラグビーに携わり、ラグビーを通じて、数え切れないほどの素晴らしい経験をしました。これらの経験を子ども達に還元したいと思い指導者の道を志し、2016年4月から県立中央農業高校で教壇に立っています。

入学式後すぐにラグビー部創立の呼びかけをし、グラウンドの端で毎日体験会を開き、生徒を集めました。毎日、朝と放課後は昇降口前に立ち、昼休みは教室を回り、生徒に声をかけ続けました。こうした地道な草の根運動と、先生方の協力もあり、5月末に「中央農業高校ラグビー同好会」が正式に発足しました。勇気をもって、ラグビーの世界への一歩を踏み出した生徒たちに、敬意と感謝の意を表したいです。また、創部に際して、各方面より用具等様々なご支援を賜りました。この場をお借りして、感謝申し上げます。

創部1年にも満たず、右も左もわからない状態からスタートした中央農業高校ラグビー同好会ですが、今はチームの「文化」を作り上げる時期だと考えています。生徒一人ひとりが、この部活をどんな部活にしたいのかを

考え、挨拶や言葉遣いを大切にすることをはじめ、学校生活や学業にも全力で取り組む雰囲気ができつつあります。わずか1年にも満たない短い期間の中でも生徒たちの成長を感じることができ、とても嬉しく、誇らしく感じます。

現在の活動状況ですが、平日は学校で基礎練習やウエイトトレーニングを行い、休日は都合のつく限り他校と合同練習をしています。様々なチームと関わることで、それぞれのチームが持つ文化や雰囲気を体感することができ、とても良い刺激になっています。また、高校生だけではなく大学生や近隣の中学校のラグビー部との合同練習も積極的に行っています。横浜国立大学ラグビー部との合同練習では、大学生に混ざってプレーすることで、ハイレベルなプレーに直に触れることができ、海老名市立柏ケ谷中学校ラグビー部との合同練習では、生徒たちは未熟ながらもラグビーを「教える」という貴重な体験をすることができました。特に、本校と同じく海老名市内にある柏ケ谷中学校とは、今後さらに連携を強め、ラグビーを愛する子ども達を増やしていきたいと考えています。このように、ラグビーを通じてとても濃密で有意義な日々を過ごしています。

「ラグビーが楽しい」と生徒達は口をそろえて言います。この気持ちをいつまでも忘れずにいてほしいと思います。3年間という限られた時間の中でラグビーというスポーツを大好きになって、卒業して行ってほしいと心から願います。中央農業高校ラグビー同好会は、農業に例えればまだ種を蒔いたばかりです。この種がどんな芽を出し、どんな花を咲かせるのか、今から楽しみで仕方ありません。また、創部に際して、多くの関係者の方々にお力添えをいただきました。厚く感謝申し上げます。中央農業高校ラグビー同好会の今後の活躍にご期待ください。

